



上北だより

296号

平成27年1月30日
練馬区立上石神井北小学校
校長 市川 順康

「万巻の書」

校長 市川 順康

5年生の社会科見学のスタートは、「NHKスタジオパーク」からでした。当日は、全国からたくさんの、児童、生徒、見学の人であふれかえっていましたが、上北小の児童たちは班ごとにしっかりと館内を見学していました。展示で目を引いたのは、「大河ドラマ」についての説明や歴史についての解説でした。今年は、「吉田松陰の妹」が主役。もちろん吉田松陰についても詳しく解説されていました。

わたしは、高校生の修学旅行で、山口県に宿泊した時、萩、津和野を巡り、班行動で松下村塾を見学したことがあります。落ち着いた静かな町並みと、飾りのない、整然とした町の様子と何ともいえない空気感を思い出します。「修学」といっても、そこは高校生。友達と楽しく過ごした思い出の方が多く、このときにもっと吉田松陰について勉強しておけば良かった思い出しました。このドラマのきっかけからか、今、また、その吉田松陰がブームになっています。「尊敬する歴史上の人物」「上司になってほしい有名人」などのランキングでは、必ずといっていいほど上位にランクインする人物になっているそうです。ビジネス書や雑誌にも多く取り上げられ、現代にもその教えやことば、考え方を身に付け、実践している人がたくさんいるということは、時代を超えた、普遍的な存在として、現代の人々に示唆を与え続けているともいえます。吉田松陰は、その教えの一部で次のように述べています。

「^{まんがん}万巻の書^{しよ}を読むに^{あら}非ざるよりは、

^{いづく}寧んぞ千秋の人たるを得ん」 安政三年秋冬「松下村塾聯」

【訳】 沢山の書物を読破するのでなければ、どうして長い年月にわたって名を残す、不朽の人となることができるだろうか。なれはしない。

「万巻の書」というのは、たくさんの本を読むことです。読書による鍛錬は、この頃にも重要であるとされていました。当時は本を読み、知識や教養を深めることは当たり前でした。しかし、インターネットの手軽さで、今では、気軽に情報にアプローチできるようになりましたが、一方で「万巻」を目指した、集中力と粘り強さが必要な読書は、敬遠されがちです。

上北小では、読書旬間で、読書に集中して取り組みました。図書委員会を中心に、児童に本を読むことの楽しさを紹介してくれました。教育目標の「さいごまでやり抜く子ども」を育成するためにも、「万巻の書」を意識して、教育活動に取り組んで参ります。日頃は、保護者、地域の皆様、学校図書館関係の皆様にご協力を賜り、誠にありがとうございます。今後とも、教育活動へのご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

2月の行事予定

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 2日(月) 委員会 | 16日(月) クラブ |
| 4日(水) 体育朝会 | 18日(水) 4時間授業 |
| 5日(木) ふるさと文化館見学<3年> | 19日(木) 入学説明会(1・2年4時間授業) |
| 8日(日) 応援団祭り | 本の探検ラリー<2年・みつば> |
| 9日(月) クラブ 避難訓練 | 20日(金) 本の探検ラリー<1年> |
| 11日(水) 建国記念の日 ファミリージョギング | 23日(月) 馬頭琴の調べ<2年> |
| 12日(木) 5時間授業 | 高学年保護者会 |
| 14日(土) 土曜授業 | 27日(金) 6年生を送る会(集会~1校時) |